



緊急コロナウイルス感染症対策支援事業

Fight COVID-19 with ViViD PhaseI&II

国際NGO ViViD
2020

ViVIDとは？

当団体は、今年2020年2月に創設された日本発アフリカ系非政府組織です。代表の蔵田が2011年より支援し続けてきた西アフリカガーナのセイチエレにおいて、現在「**包摶的で持続可能な地域コミュニティ開発の実現**」をミッションに掲げ、「**包括**」×「**参加型開発**」×「**パートナーシップ**」で、より結果を重視した地域コミュニティ開発を目指しています。

また、**透明性、独立・公平、地域密着、持続可能性、説明責任**を団体の哲学とし、常に日々の活動で意識しながら運営しています。



メンバー紹介

現在ViVIDは、以下の6人で活動を行なっています！

 <p>Founder and Executive Director <u>Katsumi Kurata</u></p>	 <p>Administrative and Operations Manager <u>Sion Bang</u></p>	 <p>Intern and Volunteer, Community Support <u>Haruhi Ashida</u></p>
 <p>Financial Affairs, Study Tour <u>Yuka Akashi</u></p>	 <p>Domestic Communicator, Field Survey, Development Research and Analysis <u>Machi Shiiba</u></p>	 <p>International Communicator, Online Volunteer Group, Global Partnership <u>Marina Amoah</u></p>

メンバーの個性や経験を最大限活かしながら、メンバーの主体性を重視した運営方針で活動を行なっています。
日本、米国、欧州で生活するメンバーを抱えており、普段からテレワークで活動しています！

現地ボランティア紹介



ガーナと日本のコロナ対策



Fight COVID-19 with ViVID



世界中で猛威をふるっている新型コロナウイルス感染症拡大によって、当団体が支援しているコミュニティでも感染症の流行が懸念されています。また支援コミュニティは、貧困率も高い地域で住民のほとんどが感染症対策が取れないまま、日常生活を送らなくてはいけない状況が続いていました。

そこで当団体ViVIDもその状況を深く受け止め、当初予定していたプロジェクトを一旦取り下げる、支援コミュニティにおける「新型コロナウイルス感染症対策事業 'Fight COVID-19 with ViVID'」を立ち上げることになりました。

本事業のカウンターパートであるセイチエレヘルスセンターの助産師・看護師とともに、セイチエレから「**コロナ感染者ゼロ**」を目標に掲げ、コミュニティメンバー全員を対象にしたコロナ対策を行うことにしました。

ガーナはどのようにコロナに立ち向かったのか

ガーナでは、3月12日にノルウェーとトルコからの入国者の感染が確認されました。日本で初めて感染が確認されてから学校の休校が実施されるまで一ヶ月半ほどあるのに対してガーナでは一週間経たずして休校、集会の禁止が行われました。これらの対応の違いはやはり、医療資源に乏しいガーナでは日本以上「**感染者を出さない対策**」が必要だったことが理由として考えられるでしょう。国境封鎖に至るまでの決断も早く、都市部でのロックダウンという厳しい対策もとっていることからも、重大な事態としてとらえていることが伺えます。

一方で、日本が緊急事態宣言を全国に発令した日後、ガーナではロックダウンの解除という意思決定をしています「**アフリカ最速でのロックダウン解除**」という決断でした。日銭を稼ぎ生活をする人も多いガーナの人々にとって、ロックダウンはコロナの危機から身を守ることと引き換えに「**飢餓**」という危機に直面していました。ロックダウンの解除は十分に生活を補償する余裕がないガーナ政府が下した苦渋の決断だったと言えます。

6月9日現在、セイチエレが位置するアシャンティ州の新型コロナ感染者数は1,799人[1]です。感染者数は増え続けている一方で、大統領は一定の条件下での宗教集会の再開6月中旬からの学校の再開を発表しています[2]。

3段階で継続的な支援を目指します！

Fight COVID-19 with ViVIDでは、**3フェーズ**に分けて段階的にコミュニティ支援を実施しています。フェーズⅠでは、コミュニティ唯一のクリニックである「セイチエレ診療所」の医療体制を強化するため、消毒薬や血糖測定器などの医療物資を寄付致しました。フェーズⅡは**基本的な感染症対策(手洗い・マスク)**に誰もがアクセスできるよう物資支援、また正しい予防方法について啓発活動を行いました。さらに、これから開始するフェーズⅢでは、手洗い場を長期的に、より効果的に使ってもらえるよう**感染症対策フォローアップ**を行います。

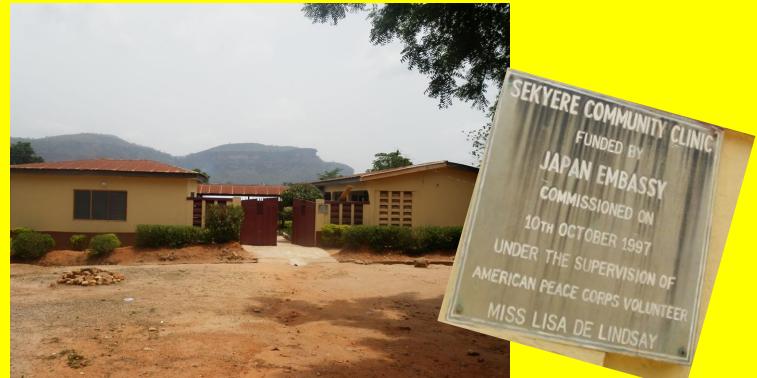
- フェーズⅠ
 - 「セイチエレ診療所」の医療体制整備
- フェーズⅡ
 - ペロニカバケツ(簡易手洗い場)の設置
 - 全住民へマスク配布
 - 感染予防啓発活動
- フェーズⅢ
 - 感染症対策フォローアップ(消耗品提供、使用率調査、啓発活動、等)

医療物資の配布

セイシェレ診療所は、日本のODAによって設立された、コミュニティに唯一存在する医療機関です。(写真右)住民の一般的な病気の治療から定期検診、出産まで行っています。しかしセイシェレ診療所は慢性的な運営資金難を抱えており、コロナ対策はおろか、通常の医療体制も整えられていないのが現状でした。

そこでViViDは、まずセイシェレ診療所で通常の医療活動ができる体制を整え、コミュニティにおいてコロナ対策の中核を担えるよう、「Fight COVID-19 with ViViD」と題して医療物資を届けました。

(ヘアーネット、消毒液、マスク、医療用ティッシュ、ハンドサンタイマー、血糖値テストストリップ、薬品包装紙、バンドエイド、ウォッシングパウダー、手術用縫合糸)



1997年日本の無償資金協力により設立されたセイシェレ診療所



セイシェレ診療所へ医療物資を届けました。



配布するマスク
(写真左)



セイシェレ診療所の看護師長フバートさんより出産前検診へ訪れた妊婦がマスクを受け取る様子(写真右)

手洗い場の設置

コミュニティの男性が木の台作りに協力してくれ(写真下)、石鹼とペロニカバケツを設置したこと~~で~~住民が簡単に新型コロナ感染対策のための手洗いができるようになりました。

そしてさらにサプライズで、現地スタッフがViViDのシールを作ってペロニカバケツに貼ってくれました！

老若男女様々な住民がペロニカバケツで手を洗っています。これを機にセイシェレで手洗いの習慣が定着するよう、マスクを配布の際に衛生面での啓発活動を行ったり、村内放送で正しいマスクの装着方法や3密を避けるよう呼びかけたりするなどソフト面での感染症対策も合わせて行いました。



【写真左】手洗い場を使うセイシェレ首長であり、孤児院を運営するナナ・ヤオ氏



【写真右】手洗い場の設置台を作るコミュニティの男性。

手洗い場設置マップ



①Zongo (モスク)

郊外地域であり、弱い立場の人が多く住んでいる。Bankoに向かう方面で地域の一番端に位置する。ここに設置することで、住民とBanko方面から訪れる人が利用でき、外からウイルスが持ち込まれるのを防ぐ。

②マーケット

住民の買い物の場であり、旅行者も利用する場所。マーケットを利用する前後に手洗いを行ってもらうことでウイルスの拡散を防止する。また、商人はほぼ毎日セイチエレを出入りし、街に商売にいくので、街からコロナウイルスが持ち込まれるリスクを防ぐ。この地域の住人は約1000人程度。

③バスステーション

出かけるときにはほとんどの人が使う場所。人の流れの起点になる場所なので、ここに設置することでウイルスの拡散を防ぐ。州議員がバケツを設置し、ViVIDが設置台と石鹼を支援。

④教会

キリスト教徒が多いセイチエレ住民が毎週集う場。現在は休止中だが再開に備える。

⑤クリニック

クリニックを利用する人に向けて設置。ガーナ政府だけでは支援しきれないので、ViVIDが支援。

⑥Kootia

通りかかる人が利用できるように設置。300-400人の利用が見込まれる。

⑦Jackmoro

900人程度が住むエリア。道路沿いに設置し、管理者を設ける。歩行者も利用可能。

⑧Anansekrom

この地域は100人程度と人口は多くないが、他地域からウイルスが持ち込まれることを防ぐ点でも重要。DadeaseやOyokoに徒歩で向かう人が利用することが想定される。

⑨D/A school

900-1000人程度が住むエリア。人通りが多い道路である。

⑩new town

1000人程度が住むエリア。脆弱な住人の多い郊外エリア。

⑪Panin Alahaji

約350人の住民が暮らす地域。住民の多くは農民である。

⑫Ammantem

約300人の住民が暮らす。近隣の村との往来に使われる道路沿いのコミュニティ。

⑬Ahenbronom

約1500の住民が暮らし、農業と小規模ビジネスによって収入を得ているエリア。



全コミュニティ住民にマスクを配布しました！



セイチエレの仕立て屋さん、裁縫のできる方、ボランティアの奮闘のおかげで、現地で**4,649枚**のマスクをの製造が終わり、2歳以上の**全住民に配布**することができました！

先日終了しましたクラウドファンディングでは、皆様からの多大なご支援のおかげで、目標金額を上回る

332,500円を頂きました。頂いたお金は1円も無駄にすることなくセイチエレ住民の感染症予防のため大切に使わせていただきます。

団体一同、心よりお礼申し上げます！



コロナ収束までセイチェレと共に

日本貿易振興機構(JETRO)によると、ガーナは5月31日時点で21万8,425件の検査を実施し、死亡者数はアフリカや世界の中でも最低の水準を維持しています。しかし、6月以降も毎日300人～600人の感染者が出ており、加えて大多数の感染者はアクラとクマシの二大都市に集中しています。クマシからセイチェレは車で時間程とそう遠くはなく、人の往来も少なくありません。現段階でセイチェレから感染者は出ていませんが、経済や学校が徐々に復活し活動が活発になることで今後より一層一人ひとりの感染対策が重要になってきます。

フェーズIIIでは、住民向けの感染症対策フォローアップとして、手洗い場を恒常に使ってもらうため物品提供(石鹼や故障時の修理)、手洗い場の使用率調査やコロナ終息後の活用場所検討、感染予防のため村内放送による啓発活動を行います。さらに、今回の事業のカウンターパートであるセイチェレ診療所や、事業に協力してくれたボランティア住民との議論を通して今後の事業の可能性や支援が必要な分野についての調査を行います。(活動詳細は変更の可能性があります。)

フェーズIIIの活動の様子も順次団体facebookでご確認いただけます。是非覗いてみてください！

啓発活動の様子



ViVIDはマスク配布中、2週間で6日間(朝晩)の計12回に渡って、以下の「感染予防のための行動規範」を村内放送で放送することで、住民の意識向上を目指しました。

- ・3密を避けること(マーケットや乗合タクシーでの移動が危険)
- ・マスクの着脱方法(装着方法を間違うとむしろ不潔な環境を作ってしまう)
- ・不調を感じた際の行動様式のおさらい

さらに、配布ボランティアがマスクを配布する際は各自消毒液を携帯し、万が一の場合に備えて配布者の手を消毒しながら配布に努めました。

もともとセイチェレには流水で手を洗う習慣や、多くの海外の国々と同様、普段からマスクをする習慣はないため、モノを渡すだけでなく一つ一つのモノの意味や効果的な使い方を伝えることも我々の責任と捉え、ソフト面の支援も行いました。

リサイクルBOX設置



ガーナでは生ごみは家畜の餌にする、または庭で栽培している植物(プランテンやキャッサバなど)の堆肥として使うことがほとんどです。しかし、プラスチックゴミはどうでしょう？

生ごみとは違い、ポイっと捨てたものが地球にかえっていかない無機物やプラスチック類。マイクロプラスチックも話題ですね。環境問題に力を入れている太平洋島嶼国のある国では、国内で使用されているビニール袋はすべて分解可能なものだとか！日本でも、先日2020年7月1日からスーパーとコンビニのレジ袋有料化が始まりました。

そこで、ガーナはどうなの？村民の環境意識ってどのくらいなんだろう？という疑問から、マスク配布時に包装に使ったプラスチック袋の回収BOXを、村内に2か所設置しました。今回収集した結果は、今後のプロジェクト策定等に活かしていく予定です。

さてさて、どのくらい集まるかな～！？



これからのViVID

当団体は、柔軟性・参加型・多様性を重視した開発を事業の特徴としています。ViVIDのスローガンである「すべての人に、色鮮やかな生活を」届けられるよう、短期的には提携コミュニティであるセイチェレの、長期的には他アフリカ地域での課題にも挑戦していきます。

多種多様な技術や経験を持つステークホルダーとパートナーシップを締結「One Team」を作り、多角的・戦略的に地域社会で開発活動を行い、社会課題を解決していきます。ViVIDの活動やパートナーシップ提携に興味のある個人様、団体様はお気軽にお問い合わせください。

当団体の開発事業・プログラムの特徴



ボランティアリーダーからのメッセージ

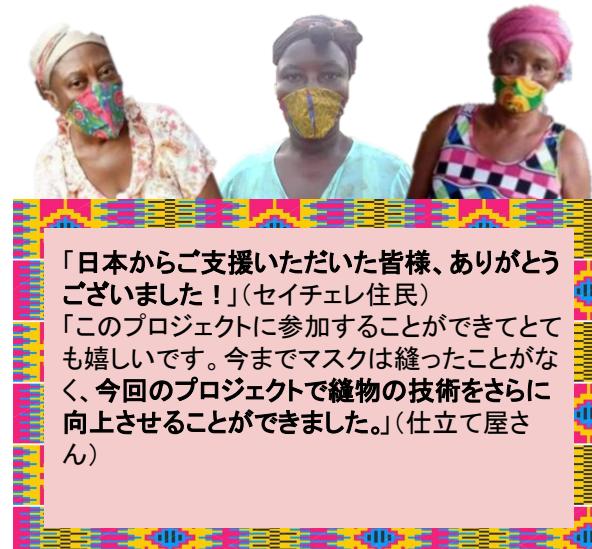
「こんにちは！私の名前はアド・エマヌエルです。趣味は映画を見ることと音楽を聞くことです。Revelation Children's House (セイチエレにある孤児院で育った経験は、人生において大事なことを沢山教えてくれました私は子供達が大好きで、どうすれば子供達みんなに平等にチャンスが巡ってくるかについて模索しています。子供達、特に孤児院で育つ子供達にはいつもハッピーであって欲しいと願っています。

現在私は教師として働いています。今のところフルタイムではないのですが、今後明るい未来が待っていると信じています。実は、子供の時は会計士になりましたが(笑)でも今は教える事が大好きですし、教師であることを誇りに思っています。

私がViVIDに興味を持ったのは、カツミ代表からViVIDの活動について話を聞いたのがきっかけでした。ViVIDの目的や活動方針、思想に共感し、大切なセイチエレの人々を助ける活動に協力しようと思いました。現在行っている緊急コロナ支援事業でのViVIDの活躍には驚いています。設立間もない団体にも関わらず、ここまで活動してくれていることに敬意を表します。だからこの活動が成功するように私も精一杯協力しているのです。ViVIDはチームとして一人ひとりが一生懸命働いています。

ViVIDはセイチエレの人々と共に働き支援してくれるということを証明してくれました。セイチエレは決して大きなコミュニティではありませんが、我々の活動に参加してくれる沢山の人がいます。

今回「緊急コロナ対策事業」のリーダーとして自身を持ってお伝えしたいのは、セイチエレの人々はViVIDの支援に関してとても喜んでいます。本当によくやってくれていると思います。日本の皆さん、本当にありがとうございます！！」



ガーナのことをもっと知りたい！？

ViVIDはコロナ対策事業中、Facebook連載企画として「おうちでガーナ」と題しガーナに関する情報発信を行ってきました。興味のあるもの、読んでいなかったものがあればViVID Facebookページより、是非読んでみてください！日本とガーナの意外な関係や新しい発見があるかもしれません。

- 第1回 (5/6) ガーナのコロナ感染症対策と現状について
- 第2回 (5/8) 提携コミュニティSekyere紹介動画
- 第3回 (5/11) ガーナの地方診療所が資金難に陥っている理由
- 第4回 (5/11) 野口英世とガーナの野口記念医学研究所
- 第5回 (5/14) ガーナと日本政府のコロナ対策比較
- 第6回 (5/16) ガーナ渡航時のコロナに纏わるエピソード
- 第7回 (5/18) 代表蔵田が2011年にセイチエレを訪問した際の動画
- 第8回 (5/19) セイチエレの基本情報人口と産業
- 第9回 (5/22) アフリカ諸国の新型コロナウイルス対策
- 第10回 (5/25) 在アクラ野口博物館・記念庭園
- 第11回 (5/29) ガーナで開発された手洗い場「ベロニカバケツ」の紹介
- 第12回 (6/4) ガーナの環境問題と長坂真護さんの活動
- 第13回 (6/9) 住民にインタビュー！
- 第14回 (6/10) アシャンティー州における新型コロナ感染状況

👉 ViVID Facebookはコチラ



ご支援いただいた皆様へ



国際NGO ViVid代表の蔵田です。改めまして、当団体が実施している新型コロナウイルス感染症緊急対策事業「Fight COVID-19 with ViVid」をご支援頂き、心よりお礼申し上げます。沢山の人から温かいお言葉を頂き、クラウドファンディング最終日まで諦めることなく、なんとか駆け抜けることができました。ありがとうございました。

この事業が当団体の初事業になったわけですが、本来想像していた以上の発見と学びを得ることができました。例えば、「コミュニティの『宝物』を見つけられた」というのが学びの一つです。マスクの配布を積極的に手伝ってくれた子供達、啓発活動に自主的に参加してくれた住民の有志達、さらにクラウドファンディングの広報活動で必要な写真や動画を撮影し、住民に対してインタビューを行なってくれたボランティア達。我々の支援コミュニティには自分の故郷を守りたいと感じ行動に移せる住民が沢山いました。

また、マスク製造時には、支援コミュニティのほぼ全仕立屋さん(計26人)が一致団結し、全コミュニティ住民およそ4600人用のマスクを製造してくれたことを忘れてはいけません。コミュニティには限られた人数の仕立屋さんしかいない中で、質の高いマスクを短期間で大量製造できたのは、彼らのハードワークとコミュニティの一助になりたいという想いがあってのことです。

一方で事業が進み、皆様からの温かい激励や貴重な支援金が日に日に増えていく中で、ViVidのメンバー達の中でも変化がみられるようになりました。一般的に、緊急対策事業というのは一過性の事業になりがちですが、この事業を行なっていく過程の中で、今後の持続可能な地域コミュニティ開発事業に如何に繋げていくか、恒常的な部分の話し合いもメンバー間で議論するようになりました。自分達が持っている力を最大限コミュニティに還元したいという思いと責任感が日に日に増していった結果だと思います。

今後の予定と致しましては、国際NGO ViVidは、コロナが完全に収束するまで支援コミュニティに寄り添い、感染症対策事業を継続して参ります。また、収束後には当初予定していた「One Team 事業」により、現地の社会課題解決を実現するため、民間企業や各分野NGOでチームを作り、多角的・包括的に地域コミュニティ開発を行なっていきます。

最後になりますが、皆様改めまして、この度はViVidのコロナ緊急対策事業をご支援頂き、誠にありがとうございました。今後ともViVidの活動と支援コミュニティの発展を温かく見守っていただければ幸いです。

国際NGO ViVid代表 蔵田克己

参考文献

1. Covid-19 Updates. "Ghana Health Service". <https://ghanahealthservice.org/covid19/>, (参照 2020年7月1日)
2. Ghana coronavirus: 8,070 cases, conditional lifting of most restrictions. "Africanews". <https://www.africanews.com/2020/06/01/coronavirus-updates-from-ghana/>, (参照 2020年7月1日)
3. 大統領、新型コロナウイルス死亡率の低さと医療体制の拡充を発表「日本貿易振興機構」. <https://www.jetro.go.jp/biznews/2020/06/95f061f1622afb35.html>, (参照 2020年7月4日)

団体情報

団体名:国際NGO ViVid
設立年:2020年2月15日
メール:vividvillagejpn@gmail.com

Facebook
Instagram
Twitter

<https://www.facebook.com/ViVIDVillageJPN/>
<https://www.instagram.com/vividvillagejpn/>
<https://twitter.com/ViVIDVillageJPN>



新型コロナウイルス感染症対策 Phase II 決算書

(2020年5月16日~7月3日) 単位:円

収入		支出	
費目名	金額	費目名	金額
クラウドファンディング	332,500	事務費	
		手数料 (9%)	29,925
		決済手数料 (5%)	16,625
		消費税	4,655
		国際送金手数料	800
		手洗い場設置費	
		ペロニカバケツ	14,097
		テーブル	7,493
		石鹼	2,849
		ステッカー	500
		交通費	555
		バケツペイント料	2,405
		消毒液	296
		マスク製造費	
		綿布	12,321
		リネン	7,715
		芯地	5,528
		縫い糸	3,330
		ゴム	12,691
		その他材料費	6,024
		作業用ビニール手袋	1,110
		交通費	1,573
		仕立て料	77,053
		消毒液	148
		啓発活動費	
		村内広報費	1,110
		環境保全活動費	
		ゴミ箱	740
		Phase III 繰越金	
		Phase III 活動費	122,960
収入合計	332,500	支出合計	332,500

*1 GHS=18.50円で換算